

秋にも1回目の植樹

宮坂建設工業と市が 森づくりに関する協定締結

宮坂建設工業(本社・帯広)と市は11日、「森づくりに関する協定」を締結した。建設業からは初の締結で、手稲区山口緑地を対象に連携して取り組む。秋にも1回目の植樹を予定している。



上田市長と協定書を取り交わす宮坂社長(左)

この制度は、市有地における森づくり促進の1環として2008年度にスタート。市と協定を結んだ企業・団体は、510年を期間に下草刈りなどの育樹も含めた活動を展開する。締結は今回を

含め7者となった。建設業で締結第1号となった同社は、1922(大正11)年の創業以来、地域の社会基盤を担う企業として、防災や除雪などの社会貢献を積極的に展開。市内では北区のアダプトプログラムに参加し、住民と一体となった環境美化にも励んでいる。

宮坂寿文社長は、札幌に支店を出してことしで70周年を迎えたことを挙げ「お世話になってきた札幌市に対し継続的にできるものはないか」と、今回の協定締結に至った経緯を披露。上田文雄市長は「いろんなまちづくりに貢献してもらいありがたい」と感謝し、今後の活動にも期待を寄せた。

協定に基づく活動区域は、手稲区山口緑地の西エリア北部7000平方メートル、11-18年度の8年かけて3500本の植樹や下草刈りなどの維持管理に当たる。市は、植樹地の造成や用具の貸し出しなどに応じる。